

美しい森林づくり

民有林と連携した 間伐の普及促進

岩手北部森林管理署

岩手北部森林管理署では、地域の森林・林業・木材産業の活性化に資するため、流域森林・林業活性化センターと連携した様々な取組を実施しています。

その一つとして、平成28年9月28日（水）に、馬淵川上流流域森林・林業活性化センターと連携し、国有林をフィールドとした「平成28年度間伐推進現地検討会」を開催しました。

本流域では、平成28年6月から、一戸町にある御所野縄文発電所が売電を開始するなど、木質バイオ



現地検討会開会の様子



講師による森林作業道作設の説明

マス資源をはじめとして、安定的な木材供給体制の確立が一層求められており、民有林において、高性能林業機械導入による生産性の向上や耐久性の高い森林作業道の作設等により、間伐等の低コスト化を図り、もって間伐の普及促進を図ることを目的に、本現地検討会を開催したものです。

当日は、二戸市浄法寺町の漆澤第一国有林157林班において、36名が参加し、「耐久性の高い森林作業道の作設について」及び「列状間伐作業について」を内容とした現地検討と意見交換を実施しました。

「耐久性の高い森林作業道の作

設について」では、岩泉町の西間林業代表 西間薫氏を講師として、森林作業道の作設手順や路網計画および路線選定の基本的な考え方をおさらいするとともに、低コスト化に向けて、特に(1)路網密度と配置に注意すること、(2)地形と調和した線形をとること、(3)路線は現地を歩いて最終決定することとし、歩く↓決める↓見直すという流れで行うこと、(4)土壌水分量と土質の確認を行うことが重要であることについて、共通認識を深めました。その後、西間さんによる片切片盛による方法での作設の実演を行っていただき、(1)切り土が少ないため残土の流出がないこと、(2)表土で盛土の法面を覆うことにより緑化が進み壊れにくくなること、(3)表土で盛土をする際は心土（下層土）を30cm程度ごとに締め固めを行うことが重要であることの説明があり、参加者は興味深く見聞きしていました。

また、「列状間伐作業について」では、民有林には馴染みの薄い列状間伐について、切り捨て間伐から利用間伐に移行させる一つの手段になり得るものであり、(1)選木の手間が省け、伐採・集材が容易になること、(2)高性能林業機械を用いた作業システムの導入により生産性を高めやすいこと、(3)労働

災害の大きな原因の一つであるかかり木を減らすことができることといった利点を説明し、国有林では積極的に推進していることについて、間近で見えて体感していたできました。当署における列状間伐の生産性は、地形条件等が異なることから一概に比較できませんが、平成19年度の一人一日当たり3.1立方メートルから、27年度は一人一日当たり7.8立方メートルと、作業システム等の改善とも相まって向上して来ており、このことも紹介しました。

意見交換では、片切片盛の方法で1日何m作設できるのか、列状間伐した林分は2回目の間伐はどのようにするのかといった意見が出されました。

今後も、流域森林・林業活性化センターと連携した林業の低コスト化等の取組を展開し、民有林への普及に努めていきたいと考えています。



列状間伐実施後